

YO-U

# 瓊



2020. 9. Vol.20 No.3 Autumn

勾玉集



太田沙良  
人類はおしゃべりウイルスは無言  
花は葉に彼はとっぷり髭爺さん  
いかる鳴くあたりあの日の恋がある

小川弘子  
どこからかハミング十葉残す庭  
突然にやさしい気持ち梔子咲いた  
リラ冷えの日のこと大木伐った日は

高貴美子  
斥候の猫を放ちてニツキ水  
もりあをがへる隻腕のアスリート  
そうきたかてつぺんかけたか揚げびつび  
(揚げびつび・香川県のうどんのかりん糖)

小山佳栄  
梅干して犬猫鳩とにわとりと  
昼寝して亡き父母の声がする  
西瓜食う年の離れたはらからと

佐々木麻里  
葛切りの端っこはどこ夕暮れて  
着飾って芸奴もだんなもだんご虫  
サイコロに切られたスイカおたべやす

佐藤千重子  
押入れの中の混沌 五月闇  
鯉幟パンデミックの青空に  
捨てられたサムソナイトに夏の朝

勾玉集を詠む

はしもと風裡

○人類はおしゃべりウイルスは無言

沙良

ウイルスの底知れぬ恐ろしさを、無言の二文字で。今日もテロテロ感染者数発表の時間。

どこからかハミング十葉残す庭

弘子

いつもハミングしていろねといわれていたのに、この句を詠んでハミングを忘れていることに気づいた。十葉は花も草も茎も美しく好きな花。

○斥候の猫を放ちてニツキ水

貴美子

用心深い猫を斥候に仕立てたところでこの句は完成したようなものですわ。あとはニツキ水を飲みながら斥候の戻りを待つだけ。

昼寝して亡き父母の音がする

佳栄

犬抱目覚めのころ（昼寝に限るけれど）懐かしい人がそばにいる感覚を味わう。共感の句。

サイコロに切られたスイカおたべやす

麻里

浮世絵てみた浴衣のジヤパンブルーとサイコロ切りの西瓜の赤い果肉。ああ、きれいなと立ち尽くした浮世絵太田美術館での感動を思い出す。

○鯉職。パンデミックの青空に

千重子

パンデミック。こんな言葉がいつも頭の片隅にある。昨今。鯉職はあんなに気持ちよくなつたのにな。

○夏木立背すじと思考まつづくに

由紀子

悲しいことも不安も悩みも色々あられど、この句を読んだらスカッとしたよ。背すじをスワッと伸ばしていい気持ち。

○七夕竹パンデミックの夜にしなう

保江

たくさんの短冊が下げられたことでしよう。お願いしたいことの一冊にコロナの終息。

○枇杷甘く父のあたまはまだ確か

多津子

良かったよかった。日に何度も「何だっけ」だっけ。は私のあたま。

兜虫さわれる母になりけり

和代

母は強し。蝉も螞蟷もさわれるようになりました。

夕焼けて涙のあとが塩になる

ひろか

涙はしょっぱい。「塩になる」と断定したところがいいですね。

○学舎は丘の上なり麦の秋

ひむれ

登下校はたいへんだったかもしれないけれど、丘の上と麦の秋はひびきあう。セーラー服を着ていましたか？

○幼子の口は全開ゼリー持つ

了子

ああ、凹に見えるよう。口開けてではなく、全開。美味しいものが入れられるのを、今か今かと待つ小さな口。

## 佳奈

はしもと 風里

葉桜や入院のまま戻らざる

新緑よ泣けないほどの悲しみよ

「佳奈」と呼ぶ「はい」と聞こえた五月闇

薔薇匂ふ美人さんだと納棺師

夏空はどこまで続く佳奈不在

たくさんの涙を吸うたハンカチーフ

合歓咲くや彼岸はどこもうす紅に

合歓の花ハグの温みをもう一度

星ひとつ涼し白血病憎し

佳奈がある茅の輪くぐりの先頭に

はふつ

辻 水音

目覚ましはOFFに卯の花くたしかな

黴の香のはふつと母のお針箱

麦の秋兄の枕が飛んでくる

柿の花放任主義に物申す

雲梯にひらくミツちゃんのサンドレス

退屈な蔓の吹かるる夏の昼

ががんぼに水瓶の水たつぷんと

吾のあくびにつられたる猫涼し

頸椎の第五あやふき扇風機

ダリア咲く老人一時預かり所

ねむ

お一た えつこ

ねむの花小さい夢を零し零し

ねむの花ゆれるピンクの付け睫毛

ねむ咲くや太陽ひそかに欠けていて

日蝕の一日終わりトマトかな

梅雨闇やふいに羽ばたく音近き

夏の夜のガラスに映り込む眼

椅子ひとつ外に持ち出し薔薇日和

緑蔭のおしゃべり響子さんの椅子

しゃらの花浮かべて皿の青深し

海の日や青いお皿にひび入り

## 茶団子

波戸辺 のぼら

薫風をだれかもらってくださいな

枇杷熟れるむかし少年探偵団

南風吹く更地になった父母の家

夏の雲メロンパンナとアマビエと

茶団子の仄暗き色梅雨晴れ間

メロン切る夜の静寂を切るように

おけいはんになって翡翠探す旅

短夜を走るヴィトンの防護服

山小屋は閉まったまんまケルン積む

海の日に開く槍穂の写真集

## 母船

火箱 ひろ

会いたいよ目を閉じて聞く青葉騒

青葉青葉ひとつこひとりわたしだけ

おひさまを揺らす若葉のカフェテラス

針千本飲ます約束かなかなかな

こんばんは余白にほたるほうほたる

加茂川の涼風の闇ハグの闇

めまといにつっこみつつこみ月讀社

枇杷するするひそかな夜の静けさも

悼・橋本佳奈さん

ジヨバンニとゆくよ青葉の風の駅

ああここが私の母船青野原

## 微熱

つじ あきこ

緑さす窓辺はゴリラ的思考

朝八時僕の夏空見て来たら

いつのまに帆が膨らんで蝸牛

どの家も紫陽花色に雨上がる

こんにちは紫陽花色でさようなら

黄のトマトもう今熟れているところ

恥じらいの色とか形とかトマト

河童忌の帆布のボディバッグから

窓枠のない窓だなあ蝉の殻

ゼリー揺れタワマン十階の微熱